

こんしゅう しん り
今週のことば「真理」

せいしょ ふくいんしょ
《聖書》ヨハネによる福音書 16:12-15

しん り
真理

かみ しんり ひょうげん ふる
神が「真理」であるという表現は古く
つか とく しん
から使われてきました。それは特に、信
らい あたい また たし
頼に値するもの、又は、確かなものとい
い み つか わたし いの
う意味で使われてきました。私たちが祈
とき つか ことば
りの時に使う「アーメン」という言葉は、
しんり こ おな こげん つく
「真理」のヘブライ語の同じ語源から作
たし ほんとう つよ
られたもので、確かに、本当にという強
どうい あら
い同意を表わしています。

ふくいんしょ しんり
ヨハネによる福音書では、「真理」は
かみ しめ かみ ことば
神のことを示すのでなく、神のみ言葉で
しめ
あるイエスのことを示しています。イエ
じぶん わたし みち しん
スは自分のことを、「私は道であり、真
り いのち い
理であり、命である」(14:6)と言われま
でし しんり
す。さらに、イエスは弟子たちに真理の
れい おく やくそく せいれい はたら
霊を送ると約束されました。聖霊の働き
しんり あら
によって真理が表わされるのです。

かみ よ な いろいろ
神についての呼び名は、色々あってそ
げんてい こと
れを限定する事ができません。むしろ、
かみ むげん はたら ひょうげん
神の無限の働きを表現するために、いろ
ひょうげん つか しんり
んな表現が使われてきました。「真理」

ひょうげん ひと
という表現もその一つです。

ちち こ せい れい
父と子と聖霊

きょうかい ちち こ せいれい さんみ
教会において、父と子と聖霊を、三位
いったい かみ よ
一体の神と呼んできました。しかし、こ
さんみ いったい かみ ひょうげん きょうかい だん
の三位一体の神という表現は、教会の伝
しょう かてい つか
承の過程で使われるようになったのであ
せいしょ ひょうげん つか
り、聖書においてはこの表現は使われて
いません。

ふくいんしょ ちち
ヨハネによる福音書14:1-31では、父
こ せいれい かんけい せつめい
と子と聖霊の関係について説明がなされ
ています。イエスは父である神に至る道
み もの ちち み
である。イエスを見た者は、父を見たの
ちち な べんご しゃ
である。父はイエスの名によって弁護者
せいれい おく
である聖霊を送る。

ひと かみ むす かみ
人が神と結びつけられるために、神か
はたら しめ
らの働きかけはいろいろと示されていま
ひと かみ はたら う
す。人はそうした神からの働きかけを受
じぶん かみ ちから あたら
けてはじめて、自分にも神の力が働いて
き かみ
いることに気づくのです。神のことをう
せつめい
まく説明しても、なんにもなりません。
かみ はたら かん
むしろ、どうしたら、神の働きかけを感
し ひつよう
ずることができるかを知る必要があります。
す。

さんみ いったい しゅじつ ねん たきの
三位一体の主日C年(滝野)